

# 社会福祉法人

# 風土記

《15》

愛知県

名古屋市の東北部にあ  
り自然環境に恵まれたベ  
ッドタウンでもある守山  
区と、同市の西北部に位  
置する西区で、保育園2  
カ所と児童養護施設、そ  
れに特別養護老人ホーム  
など介護施設2カ所、デ  
イサービスと居宅介護支

援事業、給食サービス事  
業を運営しているのが社  
会福祉法人「和進奉仕  
会」(法人本部は西区平  
出町)。  
法人の礎となった保育  
所「和進園」と青少年育  
成の修養道場「和進館」

現在の和進ふれあいセン  
ターがある守山区廿軒家  
に保育所「和進園」を開  
設したのが始まりだ。  
寛行は毛織物の羅紗の  
輸入販売を営み、財を築  
いたが、病弱だったこと  
から46歳の時に実業界が

【和進奉仕会略年表】

1932(昭和7)年	守山区廿軒家に「和進園」設立 守山区長栄に「和進館」設立
1945(昭和20)年	戦災で事業を一時中止
1949(昭和24)年	和進館内に「保育部」再開園
1951(昭和26)年	和進館内に「養護部」開設
1952(昭和27)年	社会福祉法人として認可
1953(昭和28)年	西区平出町に「平田保育園」開設
1959(昭和34)年	伊勢湾台風
1961(昭和36)年	「養護部」が廿軒家に移転
1974(昭和49)年	保育部を「和進館保育園」に名称変更
1976(昭和51)年	養護部を「和進館児童ホーム」に名称 変更
1995(平成7)年	平出町に「和進館ふれあいセンター」 新築 「平田豊生苑」開設。平田保育園と複合 施設化
2009(平成21)年	廿軒家に「和進ふれあいセンター」新築 「守山豊生苑」開設。和進館児童ホーム と複合施設化

## 「福祉」に永遠の命見出す



吉田寛一郎・現理事長



吉田寛行・初代理事長

は設立されてから今年で  
84年になる。

4代目となる吉田寛一  
郎理事長(77)は法人の  
長い歴史を振り返りなが  
ら、創立者で祖父でもあ  
る吉田寛行(1880-  
1958)に思いを馳せ  
た。

和進奉仕会は1932  
(昭和7)年に寛行が、

### 和進奉仕会(上)

ら身を引き、社会福祉事  
業に専念するようになって  
た。地域からの要望で、  
現在の和進ふれあいセン  
ターがある場所に保育所  
を開設したのは52歳の時  
だった。同じ年に青少年  
の修養道場を標榜した  
「和進館」も守山区長栄  
に開設、これも法人の基  
になっていく。

この間の事情は法人の  
歴史には記されていない  
が、寛行は、結核による  
療養生活を経験したため

ことではないか」と口癖の  
ように家族に言っていた  
と伝わっており、孫の寛  
一郎理事長は「予後の人  
生を暗中模索するなかで  
地域の要望が強かった保  
育や若者の修養の場をつ  
くったようだ」と語る。  
その源流は寛行の父、  
孟辰にさかのぼることが  
できる。孟辰は江戸時代  
に街道の防衛に当たる  
「百人組同心」として尾  
張藩に仕えた初代久右衛  
門の10代目。明治維新以  
棟、別館3棟の建物で、

か、「死んでも命のある  
ように」「この世に残す  
降に実業界に進出した。

大正時代には自らの土地

## 私財投じて 保育と青少年育成事業

青少年の修養のための道  
場として利用されたほ  
か、会議室、大小の集会  
室、音楽室や図書室があ  
り、講演会や映画会、婦  
人会の集会などとして地  
域に開放された。  
和進館には眼科診療所  
も開設された。当時の名  
古屋帝大の眼科専門医と  
看護師により、地元の小  
学生など伝染性の慢性結  
膜炎、トラホーム(別名  
トラコーマ)の診療が行  
われ、乳幼児のみなら  
ず、地域住民の診療にも  
当たった。

和進園と和進館が設立  
された年は、青年将校に  
よって、犬養毅首相が殺  
害されるといふ「五・一  
五事件」が起きた政情不  
安の時代だったことは特  
筆すべきだろう。  
法人の名称「和進奉仕  
会」は寛行の座右の銘で  
もある「和進奉仕養生」  
にちなんだものだ。聖徳  
太子が制定した「十七条  
憲法」で掲げた「和を以  
て貴しとなす」がその基  
になっており、その教え  
は、いまでも法人の理念で  
ある「和進」「奉仕」  
「養生」として生かされ  
ている。



夢殿を模した八角堂

和進館には1939  
(昭和14)年に聖徳太子  
の夢殿を模した「八角  
堂」も建立された。実は  
六角堂なのだが、「ホー  
ルがあり、ステージがあ  
り、公民館のようだっ  
た」と、在りし日の姿を  
懐かしがる人も多かった  
という。  
戦災にも遭わなかった  
八角堂は平成元(198  
9)年に耐震性の問題で  
取り壊された。移転・復  
元の声も多かったようだ  
が、実現は難しかった。  
跡地は和進館保育園の一  
部として生まれ変わり、  
その園内には聖徳太子の  
「孝養像」が寛行の胸像

と共に建立されている。  
(昭和14)年に聖徳太子  
の姿を消した八角堂の往時  
の姿は本部がある「和進  
館ふれあいセンター」の  
玄関ホールに壁画として  
残されている。  
戦時中の和進館には戦  
争の長期化で困窮する軍  
人遺族や出征家庭のため  
の職業補導所が開設さ  
れ、生活の支援を行っ  
た。だが、第2次世界大  
戦末期になると、米軍機  
による空襲が激しくな  
り、守山区廿軒家の保育  
所「和進園」は全壊。戦  
災で法人のすべての事業  
は中断を余儀なくされる  
ことになる。  
(澤晴夫)



# 社会福祉法人

# 風土記

《15》

愛知県

名古屋市内で保育園と児童養護施設、それに特別養護老人ホームを運営する社会福祉法人「和進奉仕会」(吉田寛一郎理事長)。その前身の事業は第2次世界大戦末期の空襲で一時中断されることになる。

1947(昭和22)年に傷痍軍人や遺族のための「和進授産所」として事業が再開された。さらに2年後に、保育事業が中断する前の守山区廿軒家から同区長栄に移動して再開された。戦後の物資不足で食糧や衣類の調達に苦労しての再スタートだった。

児童養護事業は1951(昭和26)年に、保育所

1997(平成7)年の考えによるもので、当初は「家庭のない児童にとって、家庭から通園してくる園児と同じ場所で保育するのはかわいそう」と反対の声もあったようだが、「子どもの世界は同一。差別として見るのはおかしい」と、一緒に保育されるようになったようだ。

「和進館児童ホーム」の卒園生は現在までに約800人にも上る。毎年

人から社会福祉法人に変更されたのだが、初代理事長の寛行は母親の出身地の平田(現・西区平出町)にも保育園をつくりたいとの思いがあった。戦災で壊れた「和進園」(守山区廿軒家)から建築材料を運び出し、地域の人たちの奉仕で、保育室が建てられた。これが現在の「平田保育園」になる。

高齡者福祉事業は1995(平成7)年の「和進館ふれあいセンター」の新築と同時に開始された。特別養護老人ホーム「平田豊生苑」で、「平田保育園」との複合施設だ。3代目の石田理事長は法人の50年史「和進」(1982年刊)で次のように書き記している。

「創立者の寛行翁が私に期待されたのは『和進の教え』の実践と老人ホームの設置経営でした」と

## 子どもの世界は同一の信念

変更して、現在に至っている。

1月2日には「けやきの会」という名前の同窓会が開かれ、卒園生たちが妻や夫に、子どもたちも連れて集まってくるという。

吉田理事長は「帰る場所がある子はいい。帰るところがなく、寂しい思いをしている子どもたちに、少しでも羽を休める場所があればと思ったのです」と話してくれた。

話が前後する。1995(昭和27)年に財団法

95(平成7)年の「和進館ふれあいセンター」の新築と同時に開始された。特別養護老人ホーム「平田豊生苑」で、「平田保育園」との複合施設だ。3代目の石田理事長は法人の50年史「和進」(1982年刊)で次のように書き記している。

当初は2階建てだった保育園が5階建ての建物に、それも特養が開設されることに地域の懸念もあつたようだが、吉田苑長は「近くの人から、ここに特養があつて良かったと言っていただけのことになりました」と手応えを話す。1階の食堂には赤ちやうちんがぶら下がり、地域の人もお酒を

楽しめるというのが、何ともほほ笑ましい。法人が運営する保育園、児童養護施設、特養とそれぞれに地域に溶け込んでいのがよく分かつたが、吉田理事長の「年寄りも子どもも一緒に」ところで生活なり、自然に交わるということなどは、非常にいいことだと思つています」という言葉が印象的だった。(澤晴夫)

児童養護事業は1951(昭和26)年に、保育所

風で「建物は半壊に近い状態」(吉田理事長)だ

石田太禪・第3代理事長



### 和進奉仕会(下)

## 地域に溶け込む施設運営

「出入り口が一つしかないから、デイサービスで来るお年寄りや園児の交流が自然にできる。園児や徘徊の高齡者が(施設から)出て行かれてしまふのが心配の種だった。冷や汗をかくこともあるが、施設してしまふことは地域の人の心遣いから、疎遠になつてしまふと思ひます」

平田豊生苑が開設されて今年で21年になるが、



和進館ふれあいセンター